

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第一回 建築・インテリア系教育課程編成委員会	
開 催 日 時	平成 29 年 7 月 21 日 (金) 15 時 00 分～17 時 00 分	
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール、9 階 904 教室	
参 加 者	外部委員：5 名	内部委員・学内関係者：6 名
	＜外部委員：5 名＞ (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照) 大塚雄二 (公益社団法人建築家協会 大塚雄二都市建築設計事務所) 樋口修 (東京商工会議所中野支部／株式会社ヒグチ設計) 中山聡 (前田建設工業株式会社) 霜野隆 (日本インテリアプランナー協会会長 株式会社レスト マムハウス事業部部長) 須永裕之 (清水建設株式会社 東京支店 生産総合センター) ＜内部委員：4 名＞ 高瀬恵吾 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 校長) 白井雅哲 (同 副校長兼企画部部長) 杉本安雄 (同 建築監督科科长) 野上和裕 (同 建築科科长、議長) 鈴木昇 (同 建築科夜間(建築士専科) 科長) 高山寿一郎 (同 インテリア科科长、書記)	
会 議 録	＜第一部 系別分科会＞ 15:00～15:30 B1F テラホール 1. 学園側関係者挨拶 専門学校東京テクニカルカレッジ校長 高瀬恵吾 2. 委員のご紹介 3. 前回会議 (平成 28 年度第 1 回会議) (全体会議) 議事録確認 4. 平成 28 年事業計画進捗状況報告 ①就職内定状況に関する報告 ②学生募集状況に関する報告 ③三つのポリシー策定に関する報告 ④リアルジョブプロジェクトの取り組みに関する報告 ⑤卒業生調査に関する報告 ⑥海外研修等特別プログラムに関する報告 ⑦研究倫理委員会に関する報告 ＜第二部 系別分科会＞15:40～17:00 904 教室 1. 議長挨拶 (野上) 2. 前回 (系別分科会) 議事録の確認 (野上科長) 以下、前回の議事録を訂正・追記させていただきました。 ・ (p. 1) 第一回 建築・インテリア系教育課程編成委員会 → <u>第二回</u> 建築・インテリア系… ・ (p. 3) 監督によっては見積も違う。 → <u>協力会社からの提出されている</u> 見積が監督によって違う。 ・ (p. 4) 社内資料などを見ると職長がノートパッドを使って仕事をしている。 → 社内資料などを見ると職長が<u>スマートフォン</u>を使って仕事をしている。 ・ (p. 4) 現場で・・・レクチャーを受けることは出来るのでしょうか？ 可能です。 → <u>現場見学</u>でのレクチャーを受けることが可能です。 ・ (p. 4) 現場も情報化が・・・もっとそれらのツールを磨いてほしい。 → 中山委員より頂戴した意見	

3. 意見交換

・今回は、建築科のカリキュラム変更に関して意見を頂戴したい。(野上科長)

・校長より建築科の現状を説明。

建築科のカリキュラムについてぜひご相談ご指導いただきたい。

建築士の資格取得、実社会に出てすぐに活躍できる人材を育てるという目的は変わっていないが、建築教育が様変わりしていて、新しい技術が入ってきている。そのためカリキュラムが膨らみ過ぎている。都市計画や地域連携なども入っており、学生の表情を見るとボリュームが膨らみ過ぎていて圧倒されている感じもあり、カリキュラムをシェイプアップしなければならない時期に来ている。専門学校2年課程、4年課程のそれぞれの学科の特徴にあったカリキュラムの在り方をご審議いただきたい。建築科夜間では非常勤の講師の集まりの中で一部試験的に始めている。

2級建築士の受験率も下がってきている。在学中の勉強で2級建築士を合格できるという自信が学生にない。2年間勉強して2級建築士の受験を当たり前になるように意識させたい。最終的には1級を取ってほしい。資格が中心の職業文化なのでそこをきちんと踏まえて卒業させたい。しかし、今のカリキュラムでは情報過多になっている。

建築系の競合校はここ5、6年で特徴付けを行ってきている。我々の学校も、すぐに働ける若者を育てたい、さらに資格をきちんと取れる、テクニカルカレッジで学ぶとこのようなことが出来るという特徴付けを出来るように、ここ数年でカリキュラムを変えていきたい。(高瀬校長)

・野上科長より、「建築科の歩み 現状の把握と今後の課題」、「H14/H15・H21・H24・H29年度入学生用カリキュラム」の配布資料を基に、建築科の歴史、カリキュラム変更に関して説明をさせて頂きました。

・現在の建築科のカリキュラムと問題点

1年生の初めごろは住宅の小さなものから二世帯住宅、併用住宅と規模を大きくし、それに合わせて法規・設備・環境などの座学授業を行い、1年生の最終の課題はRC造の壁式構造のアパート程度規模からだんだんRCの建物に移行していき、2年生の頃には外から人が利用する建物ということで、保育園や集合住宅・事務所ビル、最終的には複合建設5000㎡程度のものまで卒業までに行う。実習を中心に、各実習に関連する座学を設けて1年次から2年次掛けて内容を濃く合わせていく。科目間の繋がりは分かりやすくなっているが、自由度が低くなっていることが言える。

実習課題の目標が細分化されており、クリア目標が明確になり、ボトムアップが図れている。その反面、細かく細分化された分課題の中に自分の思想や・調査を盛り込む時間が足りず、弱くなっている(プレゼンテーションボードの仕上がり低い、提出期限が守られていない)。

・二級建築士受験率低下の問題

建築科の夜間過程では、先に取組を行っている。例えば、授業資料に二級建築士の過去問題を入れたりしている。(野上科長)

- ・設計の授業の改善を図っている。二級建築士の学科を受かるが、二次試験が受からない。大学と同じような授業ではない特殊階ではなく、一般階をやりながら設計の知識が必要なことを意識させる。非常勤講師会議を行い非常勤の先生方の方向性を確認している。(鈴木科長)
- ・建築の設計は特殊階を求めるということが長けているから、いい建築が造れるというものではなく。必然性を求めていくことがベースにある。教育方法が特殊階を求めていいものを造らせるというのはいいい方は違うのではないかと思う。(大塚委員)
- ・先生は学生の前に来ると特殊階のものを褒める。一般階の学生を見て褒める方はいない。面白いものを作った学生を称える。しかし、夜間の学生の中には、いろいろなレベルの方がいて中には建築のプロの方もいる。その人が当たり前に行っていることをみんなが拍手しているところを見て、それは違うのではないかと感じた。みんなが当たり前に行えることをみんなが出来たほうが健全だと思った。1年間そのような状況を見ていたら、やる気のある学生だけが残った。(鈴木科長)
- ・設計の課題の方に話が寄ってしまっているが、二級の受験率が落ちている。カリキュラムが大学化している。一級建築士が行うような課題をしているが、木造住宅の1、2階の柱も通せない。2年間で出来ることを審議して頂きたい。(白井副校長)
- ・二級建築士の受験率を上げるためにはプリント(問題)をたくさんやるのが一番の近道だと思う。学園の教育理念があり、資格の学校と違う視点で、建築業界で働ける人材を育てるという課題があるが、近々の課題として二級建築士合格率を上げるのであれば、問題をたくさん行う。徹底的に問題やらせ、実務者から実務の話を聞く授業を、バランス良くカリキュラムの中に入れていけば、いい人材が育ち二級建築士の合格率も上がると思う。(中山委員)
- ・建築学科卒業した新入社員に会社が求めるものはどのようなことでしょうか(鈴木科長)
- ・いつの時代も同じだと思うが、性格的なものが大きい。くじけない、芯がしっかりしている。主張することはする。いろいろな階層の方、職人と意見を交わせることが出来る人材。(中山委員)
- ・入職者を決める際、何(面談、ポートフォリオ)を重視して選んでいるのか。(鈴木科長)
- ・小中学園から学生の受け入れのお願いがあった際に、会社の中でどのような人材が望まれているのか会社の面接官にインタビューした中で、テクニク的なものになるかもしれないが、ポイントをずらさないで、すぐに回答が出てくる、レスポンスの良い人材という意見があった。(中山委員)
- ・新入社員の図面関係の研修を担当しているが、建築系のほとんどだが、設備系、技術的な事で入職している方がいるが、ほとんど素人と同じに感じる。建築を勉強してきている方、設備を勉強してきている方の差がほとんどない。2ヶ月半の研修を受け持っているが設備を勉強してきた方のほうが図面を描くのがうまいこともある。初めからエンジニアリング的な事は期待していないので技量は期待出来ないで、ゼロから教えている。新しい実務的な知識を学ぼうとする意欲はみんな高い。モチベーションを高く持って仕事をする気持ちがあれば何でも出来ると思う。施工会社なので、エンジニアリング的な研修はやっているが、大学では計画的な事や、デザインなどは学習を多くやってきていると思うので、構造的な事をゼロから教えている。(須永委員)

会社としては、受験資格を得たら一級建築士を取得するような方針を出しているのですか。
(鈴木科長)

・清水建設では一時期一級建築士取得については言わなくなったが、施工管理技士を取らせていたら、建築士の受験者が少なくなった。最近方針が変わって建築士受験をさせている。新入社員から5年間で基礎技術の習得期間となっており、技術的な本を与えているが、なかなか勉強してもらえない。しかし、人事考課には関係ないが、みんなに半年に一回試験を行わせている。それが勉強をするきっかけになっている。(須永委員)

・建築科が直面している二級建築士受験の問題は2つある。1つは入学者の問題で、競合校が底を打っている。青山製図は2年間勉強した後1年間の過程で二級建築士を取らせて合格率を出している。中央工学校は大量の卒業生を出しているのだから、一級建築士が何人いるのか数を出してくる。当校も同じように数を出していけないと戦えない。何かを捨てても二級建築士の合格率を強化すれば、その戦略の中に乗って行ける。もう一つは、企業が卒業してすぐに二級建築士を取れる学生を本当に必要としているのかという問題がある気がする。現在、建築科に色々なカリキュラムがあるのは、逆に色々な出口を模索している入学者を集めようとしていることだからだと思う。広い窓口で受け入れないと入学者を増やせない。その入学者が刷り込み式で二級建築士が取れば、本当にその者が企業に入った時に役に立つ人材になるのかという問題を比較して、みなさんにご意見をお聞きしたほうが分かりやすくなるかと思う。建築科のカリキュラムを見ると、都市計画、一般的な施工や構造力学などがあるが、はたして環境リテラシーが必要か、RJP（リアル・ジョブ・プロジェクト）の授業に意味があるのか。二級建築士重視の授業の方がいいのか、それともRJPの授業を行って人間性を育てたほうがいいのか。その辺のところは野上科長が悩んでいることなのかと思う。(杉本科長)

RJPの授業は賛成。自ら考えること、人の意見を聞き入れることをRJPの授業の中で学ぶことが出来る。良くなかったことは、今までの地域連携の授業を捨てきれず、そのRJPの中に都市計画を入れてしまったこと。本来の学校が模索したRJPではない授業に誘導してしまった。都市計画の授業が単発であるのはいいと思うが、地域連携を残した結果、設計の時間やプレゼンコマを減らしたりし演習系の授業を削ってしまった。それが基本的なものを見てあげられず学生の作品の質が落ちた原因だと思う。(野上科長)

・人間性の話はデジタル化できないので難しい。RJPの授業を行ってどのような効果を満たすためにやるのか定義付けが必要だと思う。RJPの授業をやってみて学生の感想はどのようなものがあつたか。(中山委員)

年度によって様々で、カフェを造った年度の学生は楽しかったとか、色々な学科と話が出来て良かったと言っていた。現在は、カフェが出来上がっているので建築的アプローチで他の学科と一緒にやるのは難しい。昨年は10階の科展示室の環境整備を行った。見学生に自分たちの作成した作品を良く見せるために何か提案してほしいということで、模型の展示の仕方から配置のレイアウト、最終的には模型を展示する棚もコストを考えながら作ってくれた。(野上科長)

RJPはとてもいい取り組みだと思う。カフェ以上のものを造るのはとても難しい。カフェを作成していった過程を含めて、それ自体を教材としていくのが良いと思う。(中山委員)

RJPの取り組みに関しては、科ごとに温度差がある。環境テクノロジー科では、6階のテラスで緑化計画、神田川の水質調査、また、テラカフェで都市型養蜂の市民講座を行ったら、翌週には学生自ら関連会社の社長に会いに行くといった、自ら率先して活動している科もある。また、RJPの評価に関しては正規科目なので、ルーブリック評価を使用して正当な評価をさせている。(白井副校長)

私の会社の営業でも、お客様との関りを27項目に分けて自己採点をし、同じ役職と確認し合い上司に提出するというをしている。客観的に自分のやっていることが見えるので、

実務の中でこのようなことがとても大切。ルーブリック評価の評価方法で、RJP の効果が見えるようになっている。二級建築士の合格率を上げるためにどれだけ時間を裂けるかということと、RJP のバランスが大切。(中山委員)

- ・一級建築士、インテリアプランナーの受験生が増えている。学校の中で最低二級建築士を取って仕事をするように指導してもらいたい。資格がない人は補助の仕事に回っている。(霜野委員)

- ・2年制は二級建築士を取らせるために今のカリキュラムを圧縮してでも、二級建築士の設計できる範囲だけの課題だけを徹底的にやることも一つのやり方だと思う。(杉本科長)

- ・課題の内容を単身者用の住宅や老夫婦の住宅などで、10坪、15坪程度の課題で、模型や伏せ図までやってほしい。(霜野委員)

- ・建築士の受験率を上げるのであれば、学生たちがどのような教育を受けてきたのかを認識しなければならない。塾に行って塾で勉強して与えられた勉強方法しか受けていない学生が、働き始めてから自ら勉強して資格を受験することには無理がある。清水建設さんのように会社で取組を行うと受験するようになる。学校内で二級建築士を受験させるシステムを作らなければならない。資格が持っていればいいのかという話は、これから先は資格がなくてもいい時代が来るかもしれない。AI が何万通りものノウハウを蓄積できるので人間では太刀打ちできない。免許が無くても自動運転で車を運転できる時代が来るかもしれない。人間として何が必要なのかというと、考える力が必要だと思う。地頭を鍛えることが必要だと思う。RJP で学生が自ら考え授業に取り組むことは重要なことだと思う。二年間でカリキュラムを凝縮しなければならいかもしれないが、現在の RJP の授業を含めたカリキュラムは間違っていないと思う。(大塚委員)

- ・現在はインターンシップはやっていないのか？社会で勉強することも大切だと思う。(樋口委員)

- ・企業様と提携しているわけではなく、企業様からお声がかかった時に行かせていただいている。(野上科長)

4. 次回日程 (議長)

- ・平成 29 年度

平成29年11月22日 (水) 13時30分～17時00分

5. 閉式の辞 (議長)

以上